

令和7年度 第3回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和8年3月17日(火) 午後1時30分 開会
午後3時50分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 大会議室
- 3 出席者
 - ・町長 佐野 和広 ・教育長 市川 隆
 - ・教育委員 渡邊 正志職務代理者 ・教育委員 望月 正宏 ・教育委員 山本 純司
 - ・教育委員 望月 聡美
- 4 事務局等の出席者
 - ・総務課長 遠藤 一明
 - 教育委員会事務局 ・学校教育課長 若林 将基 ・生涯学習課長 遠藤 賢
- 5 協議事項
 - (1) 令和7年度教育委員会特別重点施策評価及び令和8年度特別重点施策について
 - (2) 南部町立の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
 - (3) 南部地区小学校の統合について
 - (4) その他
- 6 議事経過の概要
 - 次のとおり

1 開 会 (渡邊 正志職務代理者)

春になってきました。八幡神社のしだれ桜も満開です。3月は卒業というイメージあります。今までの環境から4月の新しい環境へ橋渡しという期待があるような雰囲気です。町では3月14日に閉校記念式典がありまして、両校とも151年、152年という大きな歴史があります。4月からは新しい南部小学校に受け継がれたことで、本当に町長をはじめ職員の皆様、ありがとうございました。地域が納得する形で素晴らしい閉校式ができました。今日は議題が3項目用意されています。二つ目の教育職員に関する業務量管理、健康確保実施計画については、教職員の働き方改革に関することになります。それでは、第3回の総合教育会議を始めます。

2 町長あいさつ

閉校式が無事に終わってよかったです。閉校式へ来場した地域の方はいろんな思いがあったと思いますが、やはり子どもがいないといけないと思いました。子どもや地域の人がい

て、はじめて町が活性化されると思います。4月からも少子化対策に注力していきたいと思っています。また教員不足と同じように、町職員数も減っていますが、少なかったら少ないなりに、今の1.2倍くらいやらなければいけない、そういう姿勢でいきたいと思っております。本日はよろしく申し上げます。

3 教育長あいさつ

改めましてこんにちは、土曜日は本当に心に残る閉校式が行われました。ご協力ありがとうございました。富士川の右岸では妙浄寺の桜が満開でございます。本日は、年度まとめと次年度の準備といった大変お忙しいところをご出席いただきまして誠にありがとうございます。町内の小中学校では、南部中学校の卒業式が3月11日に、睦合、栄小学校の閉校式が14日に行われ、明後日19日に小学校の卒業式が予定されております。今年度末は、両校の閉校に続き南部小学校の開校に向けた取り組みを慌ただしい中で進めていく必要があります。学校統合による町内教職員の人事配置も大きな変化が生じます。教育行政に携わせていただきまして2年が経過しますけれども、人口減少と少子化による様々な影響が教育現場に押し寄せていることを痛感いたします。学校の小規模化による県費教職員の定数減は小規模校故の多忙化につながっていますし、人口減少は文化芸術活動やスポーツ人口の減少につながり、多様な体験機会の逸失要因となっています。また各種教育施設の老朽化への手当も喫緊の課題となっております。そんな危機感を抱える中で、課題克服に向けた予算面では大変手厚いご対応をいただきました。施設の改修事業をはじめ、人的にも物的にも恵まれた環境で事業展開にできますことに深く感謝いたします。

さて、本年度最後となる会議ですけれども、お手元の資料にありますように、3つが議題となっています。いずれもこれからの学校教育における重要な課題です。充実した議論になりますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

4 議事

(1) 令和7年度教育委員会特別重点施策評価及び令和8年度特別重点施策について

教育長が2月定例会での協議を踏まえ、町長部局の皆様の意見を伺いたい旨述べ、令和8年度特別重点施策は3月の定例教育委員会で正式決定することを報告した。資料は7年度教育委員会方針、教育委員の評価資料、担当課からの意見資料を配布し、各施策評価等の説明を行った。

(1) 南部地区小学校統合に向けての具体的推進

質疑なし

(2) 住民の「生きがづくり」となる生涯学習・生涯スポーツの推進

(総務課長) 職員が減ってますので、今後大きな事業展開するには、他職員の協力も求めなが

らこれからもやっていく必要がある。事業内容はいいと思う。

(町長) 地域活性化を図ることは非常にいいことなのですが、一方で職員の数が限られていて、働き方改革の面では危惧される。イベントなどは中身を充実させ、回数は精査する必要がある。

(生涯学習課長) やはりマンパワーが不足してるというのは感じているところです。今後は質を落さず、いかに少人数で対応できるような事業展開をできるかということに焦点をあてて、知恵を絞りながらやっていきたい考えております。

(町長) 町の大きなイベントには職員以外の皆さんにもお手伝いいただきたいと思っています。

(山本委員) 学校教育なんかもそうですけど、足し算なんですよ、学校もどう引き算ができるかっていうと引き算はできないんです。引き算できないままきで、働き方改革という状況になっている事を考えると、どう今あるものを、有効なものを残しながら、それをうまく統合したりしながら、減らしていくことが必要なのかなっていうことと、今マンパワー不足っていうことで、やはりいかに現在のボランティアの方にも協力してもらっているといますけども、もっとやりたいなっていう人がいるのかもしれない。そういうことを含めて、ボランティア募集を広く求めてもいいのかなと思う。

(望月(正)委員) 教育支援センターで、ボランティアに近い状態で手伝えることができてることに対して、私自身もやりがい感じます。だから、スポーツ協会、文化協会とか、そういう方たちにボランティアとして協力できる方にしてもらえたらいいと思う。そのことによって町への貢献や、自分も町民の一員であるという意識が高まってくると思う。

(望月(聡)委員) 私もやはりアルカディアフェスタに子どもと毎年行ってまして、職員の方が本当に一生懸命頑張っていて、大変そうだな、でもありがたいなと思っています。やはり人が少ないっていうのであれば、そのボランティアを募集して、町民も関わっていくことが良いと思う。私自身も今、睦合小学校の家庭科の授業でミシンのボランティアをやって、本当に数回なんですけど、やはり行くと私も楽しいし、子どもたちと触れ合ってリフレッシュもできるので、まさにこの生きがいになるんじゃないかなと思うので、どんどん町民を巻き込んでいくような形にしてもいいと思う。

(渡邊委員) これ以上イベント数を増やすのは難しいと思う。あじさいボランティアは、過去には約 60 人いたが、今は減って 16 人ぐらいです。ボランティア募集には報償などを検討することも必要であると思う。

(教育長) 日本で言うと、ボランティアっていうと無償っていう意識がありますけれども、有償ボランティアというのもあります。やはりこの辺は仕込む側の工夫が必要だったことと、そういったところで予算というものもついてくるかなというところで、新たな提案をいただいたような気がいたします。実務レベルで色々な課題をいただきました。

(3) 子どもの「生きる力づくり」につながる授業改善とICT教育の推進

(町長) DX 推進もまだ浸透していない状況です。今年は万沢集学校の専門職員を役場に

配置する予定となっているので、より一層推進していきたいと思います。

(総務課長) 学校教育の中で ICT がどれぐらい子どもに影響してるのかというのはちょっとわからないんですけども、多分子どもたちは、一台端末を使い授業の中で使いこなしていると思います。

(学校教育課長) GIGA スクール構想が始まった令和 2 年度から 5 年が経って、今年 2 月 9 日に新しい端末が更新されました。そのパソコンが導入されてから、明らかに子どもたちはパソコンを使っている時間が増えたと思います。先生方の一斉授業も形を変えて、そのパソコンを使って協働的な学びであったり、あとは子どもたちの発表も、黒板のところへ行って発表するというよりも、自分のパソコンから大型テレビに映し出してそれを発表にかえるなどに変えてきていると思います。その中で、パソコンの技術は、教育支援センターの ICT 指導員が操作リテラシーを高めるようにその段階的な基準表を作っております。一方、学校教育の中では、先生方がこのタイミングでパソコンを使う、このタイミングを一斉授業にするなど、より一層授業方法の研鑽を積んでもらってやっていただけると、よりいいものになるんじゃないかなと思います。学校からの要望については、基本的には情報主任会議でまとめて、環境整備の予算は充実が図られていると思います。

(望月(正)委員) 生きる力につなげる授業改善っていうところに理解しにくい部分がある。例えば知識とか技能だけじゃなくて、それを使って考えを深めたり、その考えによって判断できたり、あるいは表現できたりすることが生きる力に繋がると思っているのですが、パソコンを使ってやろうとした時に、先生の中で二極化ができると思う。特に中学で顕著に見られるような気がしてます。子どもたちの使用については、教育支援センターで実施した資料を見るとよく使っていると思う。

(山本委員) この生きる力づくりに繋がる授業改善っていうものがあって、もうひとつが ICT 教育の推進、さらにこの二つをつなげて授業改善をすると思ってるんですけど、そうすると基本的には、学校の中で先生たちが授業をどうやって改善していこうっていうこと研究していると思いますが、その様子が私ども全く見えないために評価が難しい。学校のその研究体制は、できれば委員の皆さんに知る機会を作ってもらいたい。また、研究の様子を学校だよりで紹介するのもいいと思う。

(望月(正)委員) ICT 教育について心配してるのは誹謗中傷という、情報モラルについて子どもたちがどう考えてるかわからないんですけども、ICT の光と影について、子どもだけではなく親や社会を巻き込んだ教育が必要かなと思う。

(山本委員) SNS で暴力を振るっている様子がアップされて、結果どうなるかっていうことは、その子たちがどう考えてたかわからないんですけども、結局大きなことになっている。やること自体は間違ってるんですけど、そういうことも含めると、そのいじめという部分にも関わってくるので、やはり情報モラルの徹底っていうのは今後とさらに必要になると思います。

(教育長) その件につきましては、国からも年度内にモラル教育を必ず行うようにと連絡があ

りました。先生方がどういう工夫してICTを使っているかは、学校現場にも確認して、大きなお金をつぎ込んで予算を認めていただいで実現してますので、その効果を町民の皆さんにも明らかにする必要があります。

(4)「ふるさと教育」の推進

(町長) これに力を入れていくと以前から私も言っているので、それなりのことはやってると思います。子どもたちがどこかでそれをどう感じるかどうかっていう面では、そのリアクションが見えないところがある。

(教育長) 別の視点では、学校の先生以外のその触れ合いっていうことは非常に大きな要素のひとつになってくるかなっていうことも言える。町では、9か年を通してのふるさと教育の体系化っていうものはすでに明文化されていまして、それについて各学校でそれぞれの取り組みを展開しているといったところで、形はもういい形が出来上がってる、スキルとして出来上がってるって感じです。

(5)地域と密着したコミュニティ・スクール(学校運営協議会)事業の推進

(総務課長) 学校支援ボランティアを通じてより多くの方が学校に関わってくことを期待するということも書いてありますので、一町民として今後はそちらの方にも力を入れていきたいと思います。

(教育長) 1中2小という、小中学校の適正配置というものは一応の完成形を見ている。その時にはコミュニティ・スクールっていうものによって学校と地域の方々の距離を縮めていくって作業は必須であるということで、皆さんに説明をしてご意見をいただいとこもあります。そこについても、学校のことを知ってもらって、学校経営に参画していただくというところを取り組み続けることが必要だと思う。

(山本委員) 南部町はずっと続けてきて、県下でも誇れるくらい繋がってると思います。1中2小になったということで、学校間の情報交換っていうのは重要になってくるのかなという思いです。3月にまとめの会をやられてるので、お互いの活動等も十分に理解できてると思いますし、今後1中2小ということを見ると、それぞれの学校がそれなりに学校目標っていうのを持ってるんですが、それが南部町で育つ子どもとしての、方向性がだんだん見えてくるんじゃないかと思う。そういうところに、学校に多くの方に足を運んでもらうって機会が必要になる。地域の方が学校に足を運んで、そして子どもの様子を温かく見ていくって、教育への温かさをこれから作っていくことが大事かなとあらためて思ってます。

(町長) 以前、町民体育祭がありました。あの時は、知らない人たちの顔が見える、そしてコミュニケーションを図れた。ですから、小中学校の運動会をひとつにして1日で終わらせることも一つの案である。そうすると、また新しい発想が出てくると思います。

(教育長) 町民体育祭で、中学生がよさこいソーランをオープニングで披露して、その時のスピーチに、我々がひとりで育ったんじゃないだよ、地域の皆さんのおかげでこうやって成長してるんですよっていうメッセージが披露されて、そこに参加した皆さんが感動した

ということがありました。

(6) 「あいさつ日本一の町」への取組

(教育長) 素案を考える中で、このあいさつ運動の目的をアピールしたらどうかということで、社会全体の繋がりや信頼を深めるあいさつ運動の推進という表現がひとつあると思います。また、このやり方として、学校、家庭、地域、行政が連携してあいさつ運動に取り組むなど。日本一という表現を、もうちょっと具体的な表現に変えていくのもひとつの方法かなってということで、今回提案をさせていただいて、また次回の定例教育委員会でご意見をいただけたらと思います。

(望月(正)委員) あいさつ運動の推進とか、生徒会のスローガンとしてインパクトを強くしようとして、「日本一」が出てきたと思います。それが何をもちょう日本一かってわからないので、色々疑問を感じる人もいると思いますが、教育長の提案どおり副題みたいのものをに入れてやれば問題ないかなと思います。

(山本委員) 子どもが、児童会とか生徒会で、町であいさつをみんなで盛り上げようよっていう風な色々な意見が出てきて、じゃあ教育委員会にお願いをするなどの経過から生まれたものじゃないので、やはり生まれた経緯の土台がうっすらしてると感じる。だから何のためにあいさつするんだっていう根本がこう議論がされてないから、なかなかこう周知できないのかなっていうことも思った。いま教育長が言ったように、サブタイトルじゃないけども、具体的にこうですよっていうことを目指していくとなると、よりわかりやすくなる。方向性としては、より具体的に示すものが出てくれば、わかりやすくなるし、大人の方にも理解されやすいのかなと思います。

(渡邊委員) やはりこれは情緒的で感情的であるから、社会全体を繋げるとかそういう言葉で、目的を持った社会全体を繋げる対策運動をした方がわかりやすいと思いました。あいさつ運動はしていく必要はある。地域を見て、もう少し大人が意識的にあいさつ運動をした方がいいのかなと思う。

(2) 南部町立の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

学校教育課長から資料に基づき、策定のポイント、策定スケジュール及び計画(案)を説明した。計画(案)については、学校現場の意見を聴取して作成したことを報告する。

(渡邊委員) 計画期間が令和8年度から令和11年度までですが、その時間外在校等時間をどのように調べるのか。又、実績をどうとりまとめるか。

(学校教育課長) 時間外在校等時間は、校務支援システムの稼働時間を基準として申告されたものになります。目標に向けて教育委員会でフォローアップ調査をしていくという形になります。国への実績報告もあると思います。

(望月(正)委員) 時間外在校等時間を45時間未満にする可能性はあるのか。また個別にどのくらいオーバーしているかわかるのか。

(学校教育課長) やはり人によって偏りはあると思います。また学校によってもあると思います。

(望月(正)委員) 何十時間、何パーセントを出しても、一人一人が大体1時間程度だったら簡単にできるけど、やはり学校長が指導し、また委員会からも指導することが必要である。

(学校教育課長) 校長先生の取り組みというか、そういう校内での指導が大きいと思います。

(山本委員) 1日2時間程度を自主的に管理しないと達成できない。先生たちが、時間的な目途を示していくってということと、校内人事の中で校長先生がどういう校務配分をしていくようにしっかりやらないといけない。

(望月(正)委員) 校務分掌の配分は、それらに配慮してやるように学校長に伝える必要はある。

(教育長) 教員一人一人がこの制度の趣旨を理解して、それに取り組むっていうことが必要となる。

(山本委員) 一方で、職員室の雑談ってというのはものすごい大事だと思う。

(町長) 役場のなかでも残業の多い人はどこの部署行っても多くなる傾向がある。個人の能力もあるし、置かれてる部署もあるけれども、これはなかなか難しい課題です。あとは教育ですから、どこまでやればいいのか難しいです。

(渡邊委員) 取り組みを行い、先生方のストレスを貯めないようにできればよい。

(山本委員) 保護者等からの過剰な苦情等に対する弁護士と云々で環境を整備するっていうことは、教育委員会において体制を構築するっていうことになると、新たにそういう担当を置くのか。

(学校教育課長) 必要に応じてとなります。

(望月(正)委員) 弁護士を頼む費用はあるか。

(学校教育課長) 確保された費用はありません。町ではないが県のスクールロイヤーの活用ができる。

(山本委員) 例えば、成績処理の部分で言うと、都市部などでは定期テストがない学校や、小学校で通知表がないという学校もある。それは例としてそういうこともあるということも踏まえながら、いずれそういう検討も出てくる可能性もあるということを考えていけばいいのかなと思います。

(渡邊委員) 心身の健康問題についての窓口を設置し、必要に応じて産業医等による助言指導を促すのは、どのような形で促すのか。

(学校教育課長) これも県で産業医等がいますので、それらの保健事業を使ってやるっていうことなんですけど、管理職から促すという形になると思います。

(山本委員) 年次休暇について日数を連続して取得できるように、各学校に対して取得を促進すると記載があるが、現実的に、この小規模の本町ではまとめて取得するのはなかなか現実的には難しいと思うので、「進める」程度の表現がいいのではないかと。

(3) 南部地区小学校の統合について

【学校教育課長が資料に基づき、経過報告、校舎改修工事、外構工事、通学支援について説明した。】質疑なし

(4) その他

なし

5 閉会

(望月(正)委員) お疲れ様でした。人事異動で思い出すのは、学校はどこに行っても場所が変わるだけでやることは変わらない。役場では場所は同じけども全く違うことやるといふことで、役場の友達と本当よくできるなと話をしたことを思い出しました。今日は3つの議題があったんですが、この議題の前に、「ふるさと南部を支える人づくり」をつけると身に染みてくるのかなと思います。統合事業は本当に町一丸となって頑張っていると思います。それでは、以上で第3回総合教育会議を閉会します

以上